

事例研究報告

高等部生徒に対する セルフチェックを取り入れた 指導実践

生徒の実態

【対象生徒】

- ・知的障がい
 - ・斜視
-
- 足下が見づらく、歩行がやや不安定である。そのため、これまで教員が一对一で支援してきた。
 - 情緒面は落ち着いており、学校生活の中で簡単な口頭指示を聞いて実行することができる。
 - 注意散漫な傾向があり、「忘れているよ」と言葉かけを受けることが多く、本人も支援者の指摘に頼っている。
 - 細かな手指操作や指先に力を入れることが難しい。

保護者の願い

- 歯磨き粉のふたを締め忘れないでほしい。
- 卒業後は就労継続支援B型の事業所を希望
→少ない支援の中で自分のことができるか？

教員の願い

- 日常生活における一連の決まった活動を、手順を飛ばさずに、一人で実施できるようになってほしい。

目標とはじめの状況①

【目標①】

給食後に落としたものを拭き取る(机上、服、膝)。
口元をふく。

【状況】

ベースライン(6月18日～21日の4日間) 達成率8%

前年度から手順書があるが、教員が一つ一つの行程を指さして促す、確認のうなずきがなければ次に進めない。

行動の直前に言葉かけをする。「手順書を確認しましょう」
達成率(6月22日～28日の5日間) 80%

言葉かけなしの達成率(7月17日～20日の4日間)56%

目標とはじめの状況②

【目標②】

歯磨き粉のふたを最後まで閉める。

【状況】

ベースライン(6月18日～21日の4日間) 0%

前年度から指導。ふたは閉めるが、完全にしまっていないので歯磨き粉がもれる。

行動の直前に言葉かけをする。

「歯磨き粉のふたの閉め忘れに気をつけましょう」

達成率(6月22日～28日の5日間) 60%

言葉かけなしの達成率(7月17日～20日の4日間)25%

アドバイザーからの助言

- ◆ 注意散漫な気質は、なくなるならない。
- ◆ ケアレスミスを防ぐツールの使い方を学び、有効なツールを卒業後に引き継いでいくことが重要である。
- ◆ チェックリストは生徒の達成度によって細分化・省略した方がよい。

助言を受けての見直し①

【目標①】

給食後に落としたものを拭き取る(机上, 服, 膝)。
口元をふく。

セルフチェック…自分で自分の行動を評価する。元々習得済みの行動なので, 教員が指示するのは自分でチェックできたか促す場面のみ。こうすることで, 各行動での指示待ちを減らし, 行動が抜けていないか確認すること, 最後まで行ってから報告することが強化される。

チェックリストを見直し…できている行動は外す。できていない行動については, 手順を細分化し追記する。抜けやすい行動に特化して本人がチェックできる。

助言を受けての見直し②

【目標②】

歯磨き粉のふたを最後まで閉める。

セルフチェック…行動に対して意識が乏しい&指示書きを見落とすので、本人にチェックリスト(できていないこと)の項目を書き込ませ、自分でチェックするようにする。徐々に教員の関わりを減らす。

指導の手続き①

目標①について
セルフチェックの導入。

削除…「ごちそうさま」以降の項目
細分化…「食べこぼしを拭き取る
(服・膝・机)」を「服を拭き取る」
「(食べこぼしが残っていないか)確認
する」, 膝・机も同様。

追記…「(拭き取りシート)のふたを
閉める」「先生に報告する」とセルフ
チェック欄を追記。

月 日 曜日		チェック
○○さん, 食べ終わったらチェックしましょう!		チェック
①	机をふく	
②	*落ちてないか確認する	
③	服の食べこぼしをとる	
④	*落ちてないか確認する	
⑤	ひざの食べこぼしをとる	
⑥	*落ちてないか確認する	
⑦	口回りをふく	
⑧	*鏡を見て確認する	
⑨	ウエットティッシュのふたを締める	
⑩	先生に「できました」と報告する	

指導の手続き②

目標②について セルフチェックの導入

- A 自分でチェック項目を書く＋セルフチェック
…チェック欄を書くように教員が言葉かけ。
- B 教員がチェック項目を書く＋セルフチェック
- C 教員がチェック項目を渡す＋セルフチェック欄なし
- D 掲示したチェック項目を見て
- E 掲示をやめて

ふたをしめる	
--------	---

チェック項目

セルフチェック

記録方法と記録

【目標①】セルフチェックの各項目を

○ 自分でチェックができた

× 促してできたで記録をとる。

【目標②】○ 自分でふたを閉めることができた

× できなかった

目標①②ともに1週間の○の数をパーセンテージ化

徐々に教員の関わりを減らす方法

ステップ1 言葉かけ＋そばで見守り

ステップ2 そばで見守り

ステップ3 離れて(目線を合わせずに)見守り

80%達成できれば, ステップ1→2→3へ進む。

ステップ3を80%達成が2週間続けば指導終了とする。

指導の成果①

【目標①】

- すべき行動を細分化してチェック項目として提示することにより、80～90%の達成率を維持する。
- 10月26日に目標達成。セルフチェックの書き込みなしでも手順を飛ばさずにできることを確認し、指導終了。
- ○定着の確認：12月10日から5日間は達成率が100%であった。
- 焼きビーフンやきなこパンなど拭き取りにくい食材が机上や服に残ってしまうことについては、手指の巧緻性の問題が大きく、別の指導の仕方が必要であると感じた。

指導の成果②

【目標②】

- 人を介している間は順調に達成率80%以上を維持していたが、「ふたをしめる」の掲示のみになると一度停滞する(50%)。しかし、望ましい行動の直後に称賛を伝えることで再び達成率が上がる。
- 11月16日に目標達成。(100%)
- 定着の確認:12月10日から5日間, 100%の達成率
- 1月に3日連続で忘れる。指導の手続きAを3日間実施→達成。指導の手続きEを3日続け定着を確認。
- 家庭への般化: 参観授業をきっかけに11月9日から始め7日間で100%達成。1月懇談で定着の確認。
- 施設実習でも正しくできた。

ここが成功のポイント

- 1 生徒が自分で目標を決めて書く。
 - 再度, 目標を認識できる。
 - 本人がすべきことを納得して実行できる。
- 2 セルフチェックを書き込む。
 - 支援者に頼らず実行できる。
 - 支援者からの評価とセットにすることで, 称賛が見える&記憶に残る称賛に変わる。
- 3 家庭への般化は「簡略に, 明確に」実施するように依頼する。